

幼子とともに

2024 年度 12月号

はじめに

2024 年最後の一カ月となりました。この一年間が、神様によって守られ、子どもたちの成長を豊かに導いてくださいましたことを心から感謝します。また、保護者の皆さまには、幼稚園の活動を覚え、ご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

思い返せば、この一年は、震災から始まりました。そして、今もまだ、十分な支援も得られず、不安と恐れの中を生きる方々もいます。どうか、一人でも多くの方の生活が守られますように、お祈り申し上げます。

ドラムサークル体験

11 月 27 日（水）に、初めてのドラムサークル体験を実施しました。椅子を円にして置き、その前に、色々な形をした打楽器を置きます。子どもたちは、それぞれ、自分が叩いてみたい楽器を、自分で選び、椅子に座ります。指揮者の話をしっかりと聞き、その動きに合わせて、大きくたたいたり、小さくたたいたり、一斉に音を止めたりします。すると不思議なことに、一つの音楽が出来上がっていくのです。

指導して下さった先生は、初めにいくつかの注意点（楽器を大切に使用するなど）を伝えてくださいましたが、それ以外のところでは「失敗してもいいからね。自由にたたいたらいいからね」とおっしゃってくださいました。子どもたちは、真剣に、先生の話聞きつつ、同時に、とても素敵な表情でドラムをたたいていました。各学年、約 30 分という長い時間でしたが、集中力もそこまで途切れることなく、最後にはやり切った感を得られたのではないかと思います。

越谷幼稚園では、観劇会や演奏会を行っています、それらの大体が受動的な行事です。勿論、本物の演奏や劇を聞いたり、見たりすることは、子どもたちにとってかけがえない経験であると言えるでしょう。それに対して、今回は、自分が音楽の中に入り、楽器に触れ、音楽を創り出す側に立つわけですから、これもまた大切な経験の一つになるだろうと思うのです。違う楽器や違う音、けれども一緒にやって、楽しかった！こういう感情の積み重ねが、子どもの心を豊かに育てていくのではないかと思います。と思われた次第です。



クリスマスに向かって

12 月 1 日より「アドベント」（待降節）に入ります。ロウソクが四本ともったら、いよいよクリスマスです。今年は 12 月 22 日（日）が教会のクリスマス礼拝です。それに先立つようにして、幼稚園のクリスマスが行われます。今は、正に、クリスマス準備期間ということでしょうか。

各学年のクリスマスに向かった活動が始まりました。ちゅうりっぷさんや年少さんにとっては初めてのクリスマス行事（そうではないお友達もいますね）、年中さんにとっては、少し見慣れたクリスマス、年長さんにとっては、幼稚園で行う最後のクリスマスですね。色々な思いが交差する中でも、それぞれの思いで、少しでもクリスマスに期待をもって過ごしてほしいと願うばかりで



す。

最初は、先生方が、見本の劇をします。子どもたちは釘付けです。真剣に劇を見ながら、自分の姿を投影しているのかもしれませんが、その意味で、聖誕劇は、正に、神様の物語に、自分を投入させるようなものでありましょう。そうゆう形で、神様を感じ、イエス様を感じてくれればうれしいです。当日は、緊張から、思うようにはいかない場面もあるかもしれませんが、神様の愛が届けられるクリスマスですから、皆様の愛のある眼差しで、子どもたち一人一人を見つめてあげてください。そして、保護者の皆さまも、子どもたちと共にクリスマスの礼拝をお捧げ頂ければと思います。

まあるい抱っこ

「園長先生だっこして」と言われ、抱っこをしたら「違うよ。抱っこはこう」と言われてしまいました(笑)その子は、自分の体を丸くし、私の胸に自分の頭を置いて、私の腕を、自分を包むようにして配置していました。これは・・・「【新】まあるい抱っこだ」と思わず、心の中で・・・。

まあるい抱っこは、一般社団法人育母塾の代表である辻直美さんが提唱している抱っこ方法です。辻さんは、災害時のレスキューナースでもありまして、被災地で泣き止まない子どもたちに困り果てた保護者に、子どもが安心できる抱っこ方法を教えたことがある、という話を、確か本人から直接聞いた記憶があります（記憶が曖昧ですみません）。

辻先生の抱っこ方法は、赤ちゃんを対象としています。子どもを正面から抱っこするのではなく、体育座りのように丸くし、保護者の腕の上に赤ちゃんのお尻を乗せて、一緒に正面を向くというもの。あかちゃんが秒で泣き止む抱っこ方法です。赤ちゃんは、正面から抱っこをすると時々、足でお母さんのお腹を蹴って抵抗しようとしします。その意味で、まあるい抱っこは、安全にも気を配っていると言えるかもしれません。

赤ちゃんだろうと、幼児だろうと、大人よりも経験の少ない子どもは、大人に比べて心がより繊細です。未経験のものに対して不安や恐れを感じやすく、涙が止まらなくなることもあります。そういう時、信頼できる存在に包まれていることで心が安定し、気持ちが落ち着いてくるのでしょうか。父母は、子どもたちにとっては、かけがえのない居場所なのだと言えるのです。

子どもの心が、どこか不安定に感じたら、無条件で、包み込むように、抱っこをしてあげてください。言葉は必要ありません。居場所であれば良いのです。

園長 須賀 工

栄養士だより いけだかずみ先生

《よく噛むということは - - - ①》

私たちは毎日いろいろなものを食べています。普段はあまり意識していないかも知れませんが、よく噛んでゆっくり食べることの意義は多くあります。

- *噛む力が強くなる ⇒ 食べられるものが増える
- *唾液がよく出る ⇒ 虫歯や歯周病の予防、食べ物が飲み込みやすくなる
- *味を良く感じる ⇒ 食べ物のおいしさが増す
- *満腹感が得やすい ⇒ 肥満防止
- *脳の海馬が活性化する ⇒ 記憶力が向上する
- *食べ物がよく碎かれる ⇒ 消化、吸収がよくなる

などがあげられます。離乳食から始まり、成長に合わせてながら、食材や形状を考えてきたと思います。軟らかいものや食べやすいものばかりでは噛む回数を増やすことは難しいですね。次回の栄養士だよりで具体的な工夫をお知らせしたいと思います。乳幼児期から学童期は、食べ方を育て、口腔機能が発達し、歯の生え変わる時期です。また五感を育て、咀嚼機能を育成する大切な時期ですので、お食事をしながら、子どもたちとこのようなお話をしてくださればと思います。次回に続く - - -

いけだかずみ